

**令和8年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書**

活動団体の本事業での活動テーマ

**公民越境で地域を動かす。**

**～越境型・循環型プラットフォームの普及～**

活動団体の活動地域：新潟県新潟市西蒲区

活動団体名：株式会社And three

中間支援主体名：新潟市

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社And three
活動地域	新潟県新潟市西蒲区
専門性・強み	
# 公民連携 # ローカルゼブラ # 場づくり・ヒトづくり・コトづくり # 佐潟のワイズユース # 中間支援機能	

団体概要
株式会社And threeは、「地域・企業・行政」「過去・現在・未来」「環境・社会・経済」など3つの要素をつなぎ、まちづくりをリデザインする新潟のローカルパートナー企業です。持続可能な社会価値と経済価値の両立を軸に、地域のステークホルダーを巻き込みながら長期的な観点で地域に参画しています。

## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	新潟市
活動地域	新潟県新潟市
専門性・強み	
# 地方自治体 # 公共政策 # 市民協働 # 地域コミュニティ # 人材ネットワーク # SDGs # 環境 # 脱炭素	

団体概要
ローカルSDGsの実現に向けて、本庁・区役所の4課が連携し、中間支援に取り組みます。
政策企画部：地区単位の自治機能の向上に向けた地域人材のネットワーク支援 政策調整課：SDGsの推進に向けた取組の支援 西蒲区地域総務課：地域コミュニティとの接続の支援 環境政策課：気候変動対策や資源循環の推進に係る支援

# 活動団体と地域の紹介

## 活動団体について

団体名	株式会社And three（アンドスリー）
メンバー	代表取締役CEO 佐々木貴生 取締役COO 石橋純
活動内容	株式会社And threeは、「地域・企業・行政」「過去・現在・未来」「環境・社会・経済」など3つの要素をつなぎ、まちづくりをリデザインする新潟のローカルパートナー企業です。持続可能な社会価値と経済価値の両立を軸に、地域のステークホルダーを巻き込みながら長期的な観点で地域に参画しています。



Local Drinks NIIGATA #3

ドリンク片手に新潟の地域課題をゆるく紐解くトークイベント。

環境がめぐるど、お金めぐる？ 2026.3.11 Wed  
～ソーシャルビジネスの「自立」とは～ 18:30-20:30

## 西蒲区（中之口）について

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶西蒲区は新潟市の南西部に位置し、市内8区の中で最も広く、面積は約4分の1を占めています。</li> <li>▶地形は変化に富み、市内で唯一、海・山・平野を併せ持っています。</li> <li>▶地域コミュニティ協議会の単位で9つの地区から構成されています。</li> </ul>
資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶多様な<b>産官学地</b>のコミュニティ 産：地元で愛される農家/事業所、 官：地元密着の自治会/区役所、 学：地域で学ぶ教育機関、 <b>地：地域愛を持つキーパーソン</b></li> <li>▶豊かな自然環境と観光資源 (角田山/多宝山、はざ並木など)</li> <li>▶広大な農地 (区面積の半分以上を超える田/畑など)</li> <li>▶6次産業化の取り組み (農家レストランなど)</li> </ul>



# 活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

## ■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

### 【ありたい地域の姿】

誰かの「チャレンジ」が、地域の「農や食」「暮らし」「仕事」につながり、地域内外の資源が循環し合う地域。

### 【ポイント】

行政・民間・住民など多様な関係者が、公共的な視点を持ち、それぞれの制約や強みを理解したうえで連携する。

## ■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

### ① 場づくり（関係性の基盤）

- ・ 地域 이슈をテーマに、多様な関係者が出会う対話の場
- ・ 関係性が蓄積される継続的な情報交差点

### ② ヒトづくり（担い手の育成）

- ・ 公民の思考や制約の違いを構造として理解できる人材
- ・ 公民連携/合意形成を現場で回せるプレイヤー/中間支援者

### ③ コトづくり（実装への導線）

- ・ ①②から芽吹いたタネを、事業化へ接続する仕組み

## ■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

### ① Local Drinks NIIGATA（新潟版ソーシャルドリンクス）

- ・ 地域資源・地域課題をテーマにした対話型イベント
- ・ 多様な関係者が越境し、関係性と事業のタネを生み出す

### ② Local Shift（公民越境ロールプレイ）

- ・ 実在する地域課題を題材にした、合意形成の疑似体験
- ・ 地域ファシリテーターとなる人材・組織を育てる

## ■ 地域の現状と課題

### 【現状/問題】

- ・ 地域内コミュニティ（にしかん未来BASEなど）が発展しており、熱意を持った地域プレイヤー同士の繋がりが強い
- ・ プレイヤー×行政、プレイヤー×企業など、プレイヤー×伴走者など、事業化を目的とした仕組み・支援が不足している

### 【課題】

中間支援主体（新潟市）と連携している特徴を活かし、公民連携の切り口から、事業化機能を持つプラットフォームを実装する

# (参考) ローカルSDGs 事業の紹介

## 『Local Drinks NIIGATA』(新潟版ソーシャルドリンクス)

### 【概要】

- ・新潟の地域資源や地域課題をテーマに、行政・民間・地域が肩書きを外して集まり、ドリンク片手に「公共」を問い直す対話の場。
- ・単なる交流の場ではなく、「地域内×地域外」「行政×民間」を越境することで事業のタネ予備軍を探し、育てるための接点として設計する。
- ・尼崎市の「ソーシャルドリンクス」に着想を得て企画したもの。

### 【段階】試行・試験

#### 【実施時期】

- 第1回 2025年10月30日 「いわむロックはなぜ続く？」
- 第2回 2025年12月12日  
「子育ての”しんどい”を地域で受け止めるには？」
- 第3回 2026年4月10日 「ソーシャルビジネスは自立できるのか」

### 【活用している自然資本・地域資源】

- 第1回/第2回) 西蒲区と関わりの深い地域プレイヤー/地域活動
- 第3回) 食品ロスや未利用魚を活用したソーシャルビジネス
- ※各回のテーマは、地域版マンガラを参考にして設定している

### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・「地域循環共生圏」や「公共」の視点を持つプレイヤーづくり
- ・公共性や持続可能性を持った事業アイデアの創出

## 今後の展望

対話の場にとどめず、Local Shift等の手法と組み合わせることで、事業創出/社会実装に向けた接続点として機能させていく。



## 『Local Shift』(公民越境ロールプレイ)

### 【概要】

- ・行政・民間・市民の「思考様式の違い」を構造として体感するための、公民越境型ロールプレイ。
- ・架空の自治体を舞台に、参加者は異なる立場・制約・前提を持つ役割を担い、葛藤を含んだ合意形成のプロセスを疑似体験するもの。
- ・β版は地域を主体的に担う基礎自治体向けに開発。

### 【段階】試行・試験期

#### 【実施時期】

- テストプレイ: 2025年11月14日 中間共有会 前日エクスカージョン
- β版体験会: 2026年3月4日 栃木県小山市
- 2026年3月7日 東京都渋谷区(GEOC)
- 2026年3月下旬 新潟市

### 【活用している自然資本・地域資源】

- ・実在する自然資本や地域課題を抽象化したシナリオ設計(公園、耕作放棄地、営農型太陽光発電 など)

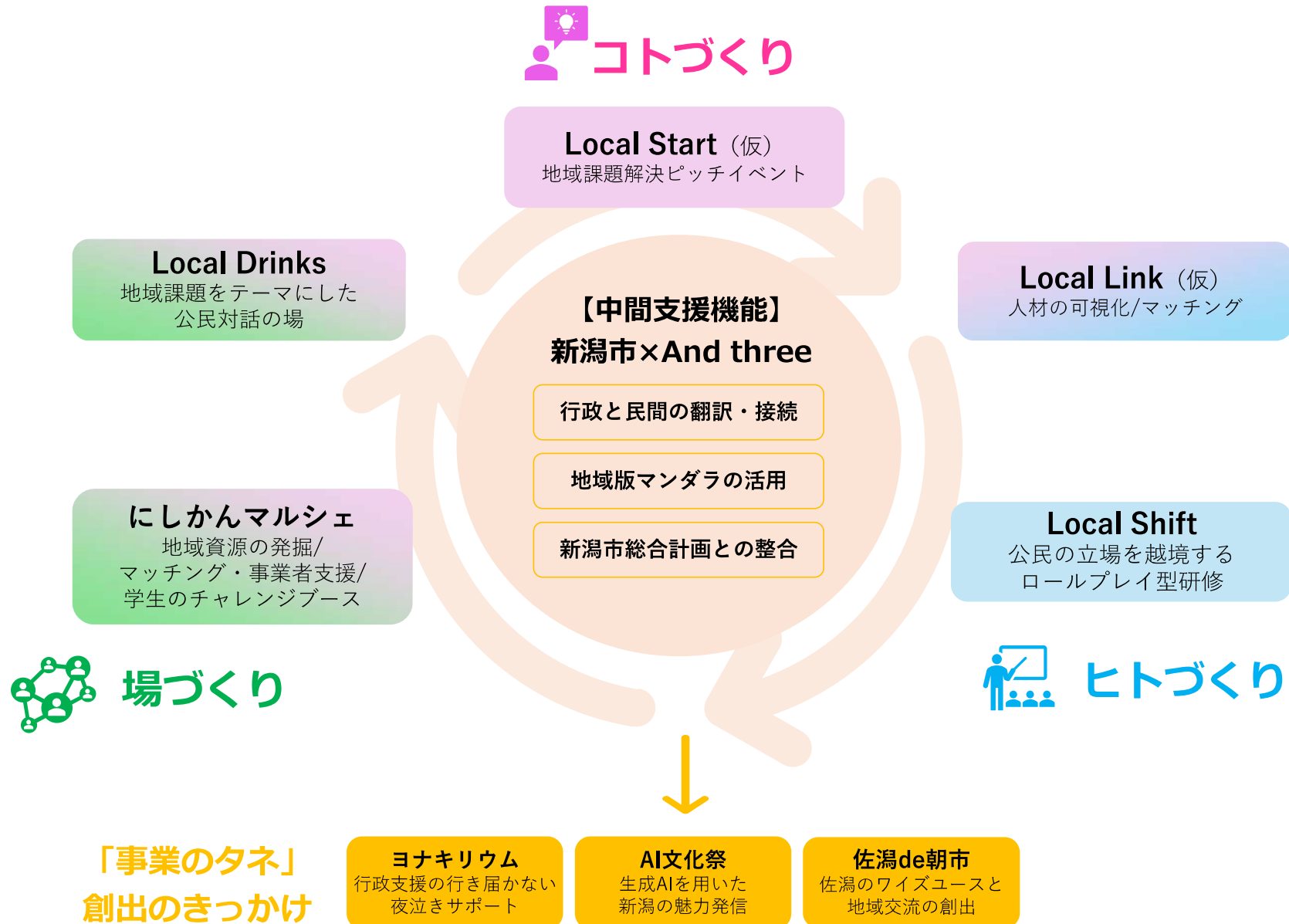
### 【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・自らの仕事を公共的な視点で捉え、複雑な地域課題を整理・翻訳できる自治体職員の育成
- ・組織や立場を越えて動ける、合意形成の担い手の輩出

## 今後の展望

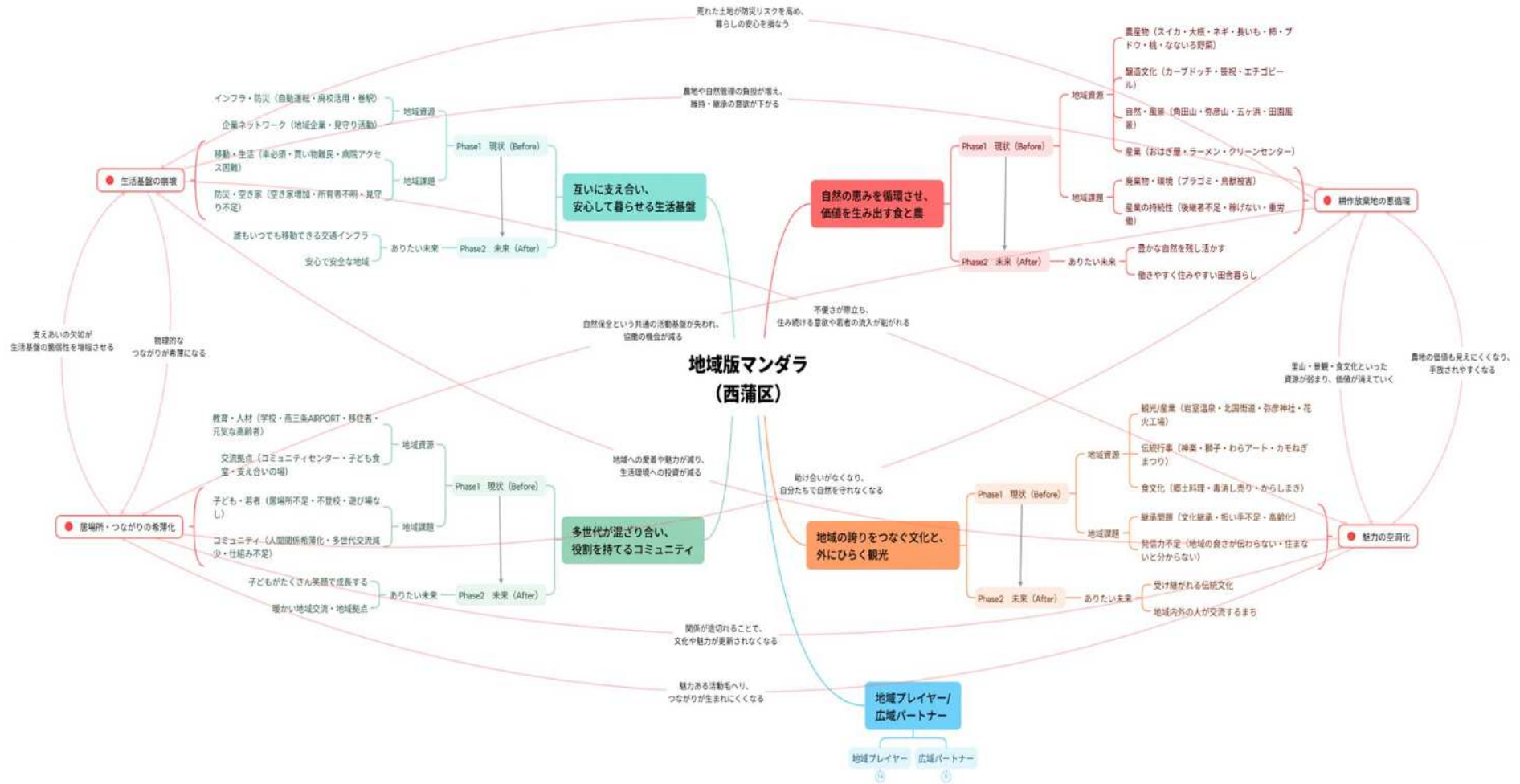
- ・自治体独自の課題に合わせた「カスタム版Local Shift」の開発や、官民の壁を行き来するファシリテーターを養成し、近隣の圏域を巻き込んだ地域循環共生圏づくりに取り組む。
- ・基礎自治体向けに加え、公民の合意形成の場で実際に活用できるようなγ版の開発も視野に入れる。

# (参考) 現状の地域プラットフォーム



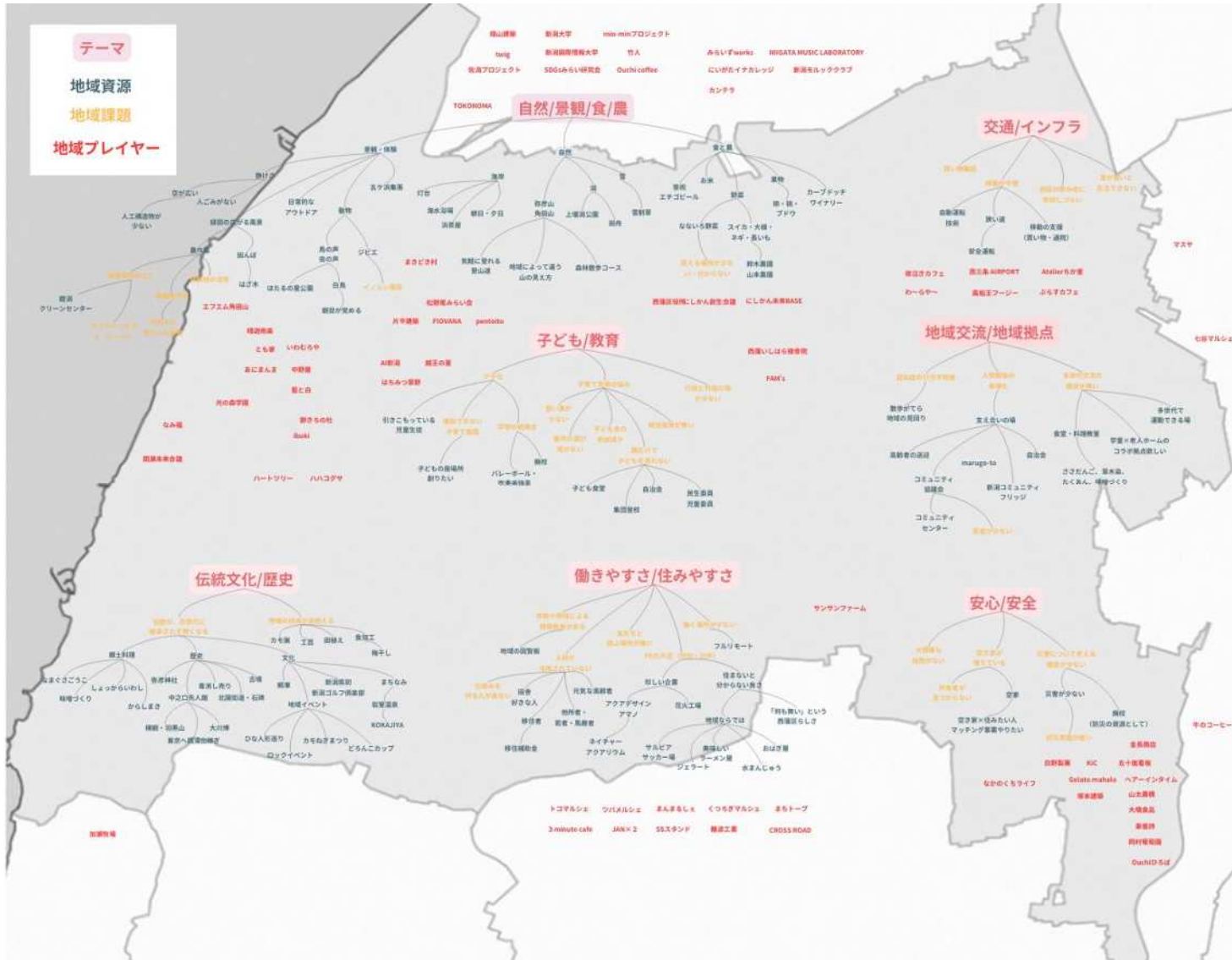
# (参考) 現時点のマンドラ

## 新潟市 地域版マンドラ (ループver)



# (参考) 現時点のマングラ

## 新潟市 地域版マングラ (マップver)



# 3 力年状態目標

## ■ 2027年度末の状態目標

- ・ Local Drinksが、持続可能な形として開催されている（補助金等に依存しない開催体制）
- ・ Local Shift（公民越境ロールプレイ）が、地域課題解決の事例を生み出している
- ・ And threeが、公民連携の設計・実装を担う組織として、新潟市内の行政・企業・民間から認知されている

## ■ 2026年度末の状態目標

- ・ Local Drinksが年5回以上の継続開催として定着し、プロジェクトが1件以上生まれている
- ・ Local Shift（公民越境ロールプレイ）が全国規模で年2回以上開催され、行政職員と民間人材の連携手法として広がっている
- ・ And threeが「地域循環共生圏の中間支援組織」として新潟市との協働関係を深め、事業終了後も共走できる体制が整っている

## ■ 2025年度末の成果と振り返り

- Local Drinksを3回開催。対話の場を設計し、継続開催サイクルを確立できた。
- Local Shift（公民越境ロールプレイ）を中間報告会・小山市・渋谷区と3回開催。  
独自の公民対話手法を開発・実践した。
- △ 9月までの上半期は企画検討に時間を費やした。いずれも実現には至らなかったが、下半期での企画・行動につながった。
- △ プラットフォームの「形」としての具体化はまだ途上。

# 今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに 実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	事業主体を探す 事業を生み出す	2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Local Drinksを年5回以上開催する</li> <li>・ 地域循環を軸として、地域資源や地域課題を各回のテーマに設定する</li> <li>・ 対話の場づくりとして設計しつつ、地域課題解決のタネを探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファシリテーター</li> <li>・ テーマ設計</li> <li>・ 広報設計</li> </ul>
②	事業主体を探す 地域のビジョンを描く	2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Local Shift (<b>地域実装版</b>) を新潟で1回以上開催する</li> <li>・ 実在する地域資源や地域課題について扱い、地域課題解決の糸口を探る場として設計する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟市との協力</li> <li>・ 地域内参加者の招集</li> <li>・ ロールプレイ設計</li> </ul>
③	仲間を探す 事業を生み出す	2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Local Shift (<b>行政職員版</b>) を年2回以上開催する</li> <li>・ 地域を越えて共生圏づくりの手法や可能性を探り、新潟にも還元する</li> <li>・ 各地で地域循環共生圏を動かせる人材を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムの標準化</li> <li>・ 外部開催先の調整</li> </ul>
④	事業を生み出す	2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ にしかんマルシェを年1回以上開催する</li> <li>・ Local DrinksやLocal Shiftで生まれた事業のタネを試行するテストマーケティングの場を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業のタネ探し</li> </ul>

# 中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

## ■ 中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体の各取組（ローカドリンクス・ローカルシフト・マルシェなど）が有機的につながり、「事業を生み出す」までのアクションサイクルが構築できている状態を目指す。

## ■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	【ローカドリンクス】 各地域課題に関心があり、主体性のある人材を見つける仕組みとして機能している。さらに人材同士の関係性づくりや地域課題の深堀から事業のタネを生み出す仕組みが必要。	開催回ごとの仮説検証を回すパートナーとして、壁打ちを行う。
②	【ローカルシフト】 独自の公民対話手法として開催実績を積み、好感触が得られている。一方で、アクション・サイクル上の位置づけが明確に定まっていない。	西蒲区など地域の事業主体を対象に実施することで、「事業を生み出す」アクションにおける効果を検証する。
③	活動団体が取組を継続・発展させていくうえで、必要なリソースや体制面を整えていく必要がある。	必要に応じ地域のステークホルダーやコミュニティにつなぎ、協力者や仲間づくりを支援する。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

- ・新潟市の地域課題の解決に資するローカルSDGs事業の創出
  - ・人材のネットワーク化から、事業を生み出すまでのアクションサイクル・モデルの獲得
- ⇒活動団体の取組に対する、行政資源を生かした打ち手（中間支援）
- ・「多様な主体との連携・協働に取り組む人材（パートナーシップ）」の獲得
- ⇒人材育成との連携

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

本事業を通じて得た地域づくりのモデルを新潟市内で横展開し、地区ごとの自治機能の向上につなげる。

# 活動・支援スケジュール【R8当初計画】

## ■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】			▶Local Drinks NIIGATA				▶Local Drinks NIIGATA			▶Local Drinks NIIGATA		
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】					▶Local Shift（地域実装版）		▶にしかんマルシェ					
						▶Local Shift（行政職員版）				▶Local Shift（行政職員版）		
中間支援主体の支援・取組計画	月例ミーティング、企画伴走、庁内各課による支援（適宜）											

備考（補足説明など必要な場合は記載）